

第 62 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 最優秀賞選評

審査委員 福井 通

この建築は、本社機能と研究所機能を持つ最先端の医薬系研究施設である。施設が立地する川崎市殿町は、「殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント」と呼ばれる国家戦略特区で、多摩川を隔て羽田空港に直結、世界的な成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に最先端の施設が集結する地区である。

医薬分野で世界最先端のイノベーションを生み出し続けている建築主から求められた要件は、優秀な人材確保のための豊かな執務環境の創出と、新鋭の企業にふさわしい象徴的な外観の創出だったという。

本建築はこの要件に見事に応答しただけでなく、主要空間である実験空間と執務空間の開放的關係を含め、新時代の快適な研究所の空間を創出した点が高く評価され、最優秀賞に選定された。

外観の特徴は、日射遮蔽機能のルーバーに膜素材を用い、無数の帆が連続的に湾曲した軽快でシンプルな形態にある。世界各国からのク

ライアントがアプローチする羽田国際空港側を強く意識し、「キングスカイフロント」の新しいランドマークとなるようシンボリックにデザインされている。

施設構成は5層で、1階は応接・共用エリア、2階から4階が研究エリア、5階が経営・総務エリアで、全ての階でアーティストとのコラボによる空間演出が見られ、魅力的な空間づくりに成功している。

1階のエントランスとホワイエは、約2mある敷地の高低差を活かした緩やかなスロープ空間で、応接等のアクティビティ空間をステップにより分節しながら連続的で開放的空間を巧みに演出している。

2階から4階がこの施設の中心となるラボとオフィス空間である。一般に研究所の実験空間は閉鎖的となりがちだが、この施設ではラボを取り巻くようにオフィスが配置され、ガラスを通して見る/見られる開放的関係がデザインされている。特にオフィス空間は隣接する多摩川・羽田空港方向にパノラマ的に曲面を使い視線を開放している。この空間の創出には構造・設備の技術的な工夫が見られる。特殊なト

ラス架構を採用し、その架構内を設備・ユーティリティスペースとす

ることで自由度の高い大スパン無柱の空間を創り出している。